

## 事務事業評価・施策評価結果を公表します

政策企画課 ☎801-5661

町では、成果重視の行政への転換、行政運営における透明性の確保を目的として、事務事業評価、施策評価を実施しています。

事務事業評価とは、町が行っている各種の事務事業を、妥当性・有効性・効率性の観点から評価し、今後の方向性や改善策を決定するものです。この過程はPDCAサイクルと呼ばれ、P (Plan: 計画)、D (Do: 実施)、C (Check: 評価)、A (Action: 改善)のサイクルを継続的に循環させることで不断の改善を図っています。

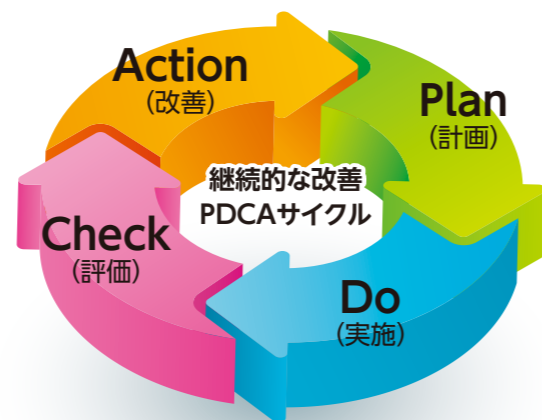
平成29年度の事業実施状況および今後の方向性は下記のとおりです。  
※全150事業の結果一覧はホームページで公表しています。

### 〈平成29年度改善状況〉

改善状況	件数
拡 充	21
改 善	43
継続実施	86
縮 小	0
合 計	150

### 〈平成30年度の方向性〉

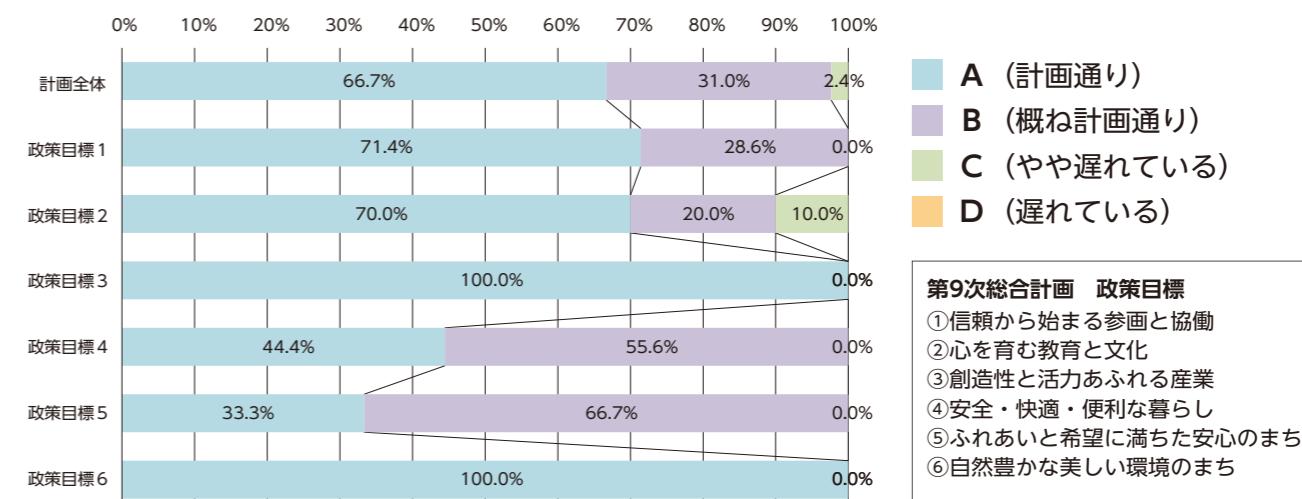
今後の方向性	件数
拡 充	19
改 善	26
継続実施	105
縮 小	0
廃 止	0
終 了	0
合 計	150



### ●平成29年度に「拡充」した主な事業

事務事業名	改善状況
消防防災関係事務	平成30年2月に県により町内の土砂災害警戒区域・特別警戒区域として635箇所が指定され、郷別の土砂災害ハザードマップを作成、全戸配布により周知を図った。また、避難所の開設順序を明確化し、広報誌やホームページで周知を行った。さらに、避難行動要支援者の支援の指針となる長与町避難行動要支援者避難支援プラン(全体計画)を策定した。
英語推進事業	ALT(外国語指導助手)を2人増員し3人体制とし、全中学校へ配置した。また、全小学校へも週1~2回ALTの派遣を行った。このほか、中学1年生を対象に、外国人と英語を通じて1日活動する「英語による長与町国際コミュニケーション活動(NICE)」を実施し、英語教育の充実と推進を図った。
廃棄物収集・処理事業	従来の粗大ごみの拠点収集に加え、希望者を対象に粗大ごみ戸別有料収集を平成29年7月から開始した。
福祉医療費助成事業	平成29年10月診療分より入院に限り、対象年齢を小学6年生から中学3年生までに拡大した。 ※平成30年10月診療分より、対象を中学3年生の通院まで拡大。
利用者支援事業	妊娠期から子育て期まで切れ目のない支援を提供するため、「子育て世代包括支援センター」を設置し、助産師や保育士などの専門職を「子育て相談専門員」として配置した。子どもや子育てに関するワンストップ相談窓口および家庭訪問による相談を実施。また、子育て支援機関との連携強化にも努めた。

### ●施策評価の割合



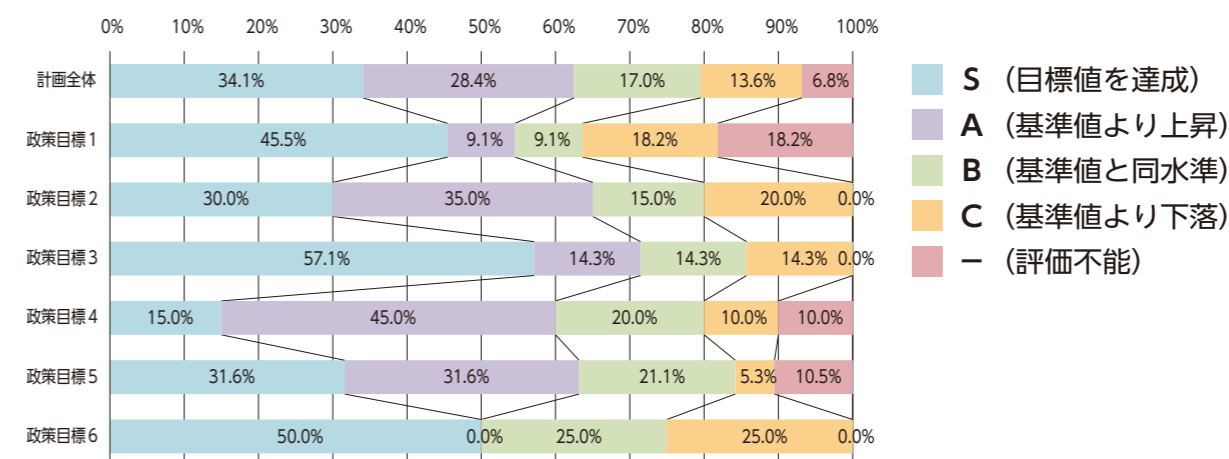
施策評価とは、第9次総合計画の6つの政策目標を具現化するために定められた、42の施策と133の施策内事業(具体的な取組)の取組状況などに関して評価を行い、各施策の進捗状況や課題などを把握し、今後の取組に反映していくものです。

この第9次総合計画の期間は、平成28年度から平成32年度(2020年度)までの5年間を計画期間としており、平成29年度は計画の2年目でした。

評価の方法は、施策を構成する133の施策内事業について、A(計画通り)・B(概ね計画通り)・C(やや遅れている)・D(遅れている)にそれぞれ分類し、これらに数値目標の達成状況などを勘案して、各施策の最終的な評価をA~Dによる4段階評価として決定しました。

※施策内事業評価を含めた評価内訳の一覧は、町ホームページにて公表しています。

### ●数値目標の評価の割合



また、総合計画にて設定している数値目標は、全部で88あります(うち、2つの指標は重複)。平成29年度における進捗状況を、S(平成29年度の現在値が、目標値を達成している)、A(平成29年度の現在値が、基準値より上昇している)、B(平成29年度の現在値が、基準値と同水準である)、C(平成29年度の現在値が、基準値より下落している)、「-」(平成29年度の現在値を把握できないなどの理由により、評価不能である)の5つに分類しました。

なお、ここで言う「基準値」とは、第9次総合計画を策定する時点で進捗を管理するために根拠とした数値であり、「目標値」とは、総合計画の期間内で達成することを目的に設定した数値です。

※割合は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても100%とならない場合があります。